

集約型コンパクトシティ形成に向けた都市拠点複合施設計画の方法論 北海道夕張市における都市再編研究 その14

コンパクトシティ 人口減少抑制 都市拠点
住民意向 都市拠点複合施設 北海道夕張市

正会員 ○宮本 宏樹 *
同 瀬戸口 剛 **
同 北原 海 ***
同 松村 博文 ****
同 宮内 孝 ****

1. 研究の背景と目的

地方小都市で集約型コンパクトシティ形成を進めるためには、分散した市街地と公共施設の集約化が求められる。公共施設集約には財政負担低減が目的の一つであるため、複合化を図り効率的な機能構成と運用を行う必要がある。それには、市民の理解が必要であるため、その利用についての市民の意向を計画に反映すべきである。本論では集約型コンパクトシティ形成に向けて、行政と市民と専門家が協働で進める、都市拠点複合施設計画のプロセスを構築することを目的とする。

夕張市では、マスタープラン¹⁾において集約型コンパクトシティ計画と清水沢地区の都市拠点整備を進めている(図1)。研究室では、実際に市役所と市民と共にワークショップ^{注1)}(図2)以下、WS)を行い、その中で集約型コンパクトシティ形成に向けた都市拠点複合施設(以下、拠点施設)の機能と

研究の方法は、以下の3つである。①文献²⁾³⁾⁴⁾の整理から集約型コンパクトシティ形成に向けた拠点施設の計画条件を設定する。②市役所と市民、研究室のWSから、都市拠点複合施設計画^{注2)}(以下、施設計画)の計画プロセスを明らかにする。③①、②から、計画の要点を整理し、集約型コン

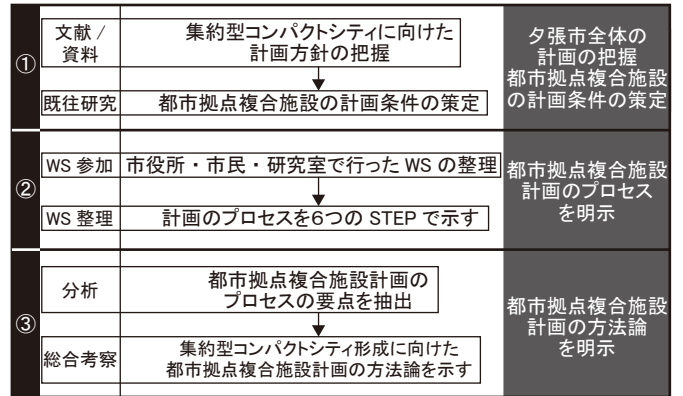


図3 研究の方法

パクトシティ形成に向けた都市拠点複合施設計画の方法論を示す(図3)。

3. 集約型コンパクトシティ形成に向けた計画方針と計画条件

マスタープランと検討委員会^{注3)}から、集約型コンパクトシ

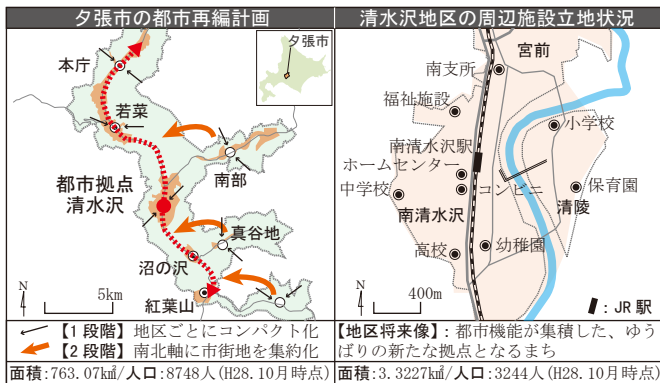


図1 夕張市の都市再編計画と清水沢地区周辺施設立地状況

WS概要	
開催日	H28.9.16/10.6/10.20/11.9の4回
主体	清水沢都市拠点整備部会事務所(夕張市役所)
目的	都市拠点複合施設の基本構想を市民と共に考える
メンバー	市民25名(市役所の職員、高校生、主婦、高齢者等) 研究室6名(株)ニトリ3名(株)アトリエブク2名
場所	夕張市役所会議室

①研究室が施設構成案を市民に発表

②研究室が計画条件を市民に発表

図2 拠点施設計画のWS概要

その関係性を示し、基本構想を作成した。

2. 研究の方法

各地から拠点機能として移行		
夕張市の4つの計画方針	【I】	市役所(本庁)・南支所(清水沢)の建て替え ↓ 都市拠点での行政のワンストップサービス実現
	【II】	各地から拠点機能として移行 ↓ 診療所・保健センター(本庁)の建て替え ↓ 各地区、拠点の既存施設と機能連携
	【III】	各地、拠点の既存施設と機能連携 ↓ 清水沢地区の統合した教育施設との連携 ↓ 子供たちのバスの待ち時間の放課後の居場所の整備
	【IV】	拠点形成した後、市内全域のネットワーク化 ↓ JR廃線に向けた市内全域のバスの交通ネットワークの拠点形成

図4 夕張市の4つの計画方針

ティ形成に向けて、夕張市役所が清水沢地区における4つの計画方針(図4)を提示した。

夕張市の拠点施設の位置付けとして、拠点施設の計画に市全体の計画を組み込むことが求められる。よって、施設計画を考えるにあたっては、以上の計画方針を踏まえる必要

がある。

また、既往研究より、夕張市の都市拠点の役割として、市民の生活の質の向上による、人口流出の食い止めに求められ、その役割を担うための夕張市の都市拠点における整備すべき機能と人口減少を抑制するための居住環境の条件が明らかとなっている。それらに基づいて、拠点施設の機能を決定することが重要となる。

市の4つの計画方針を踏まえ、既往研究²⁾³⁾⁴⁾及び、資料整

子育て	子どもが安心して遊べる場所がある	多世代交流	高齢者や子どもの見守り体制
	子どもが色々な体験をできる	行政サービス	サードプレイスでの多世代交流
学習	保育サービスが充実している	公共交通サービス	新しい友人をつくることができる
	子育て世代の共働きを支える環境の整備	交通結節点	
飲食・購買	幼児一体の施設	行政サービス	市内の公共交通が充実している
	子どもの放課後の居場所	公共交通サービス	周辺施設の公共交通が充実している
子育て	学力向上を支援する機能がある	医療サービス	家から外部の高校に通うサービスがある
	塾が充実している	医療サービス	通いやすい病院がある
学習	習い事が充実している	医療サービス	緊急時に対応できる医療サービスがある
	部活動が充実している	医療サービス	出産の環境が整っている
飲食・購買	日常の買い物をする場所が充実している	医療サービス	小児科がある
	夜遅くまで買い物ができる	医療サービス	専門的な医療サービスがある
飲食・購買	飲食店が充実している	医療サービス	介護のサービスが充実している
		医療サービス	医療品を買う場所が充実している

図5 都市拠点複合施設の28の計画条件

理による周辺施設状況の把握から、拠点施設の28の計画条件(図5)を導いた。

これらの28の計画条件を拠点施設の機能を導く際の枠組みとする。

今回のWSにおいて、研究室が28の計画条件に基づき、拠点施設の機能を決定した。

4. 施設計画のプロセス

市役所と市民、研究室で行ったWSを6つのステップで整理した。その内容を以下に示す(図6-A)。

3.の4つの計画方針は施設計画WSより前の段階で策定されているため、拠点施設計画のWSとしては位置付けられず、【STEP0】として扱っている。

【STEP1】

市民が市全体の状況を踏まえて拠点施設について議論するため、研究室が28の計画条件を市民に発表した。(例:清水沢地区において、子ども達の放課後の居場所を整備する必要がある等)

【STEP2】

市民が周辺の公共施設において施設見学で施設の使い方などを学んだ後、拠点施設に必要な機能についてWSで検討し、拠点施設の196の活動を導出した。(例:学校帰りに立ち寄る/魅力的な本や情報が得られる/食事ができる/おむつ替えや授乳ができる等)

【STEP3】

拠点施設の機能を導くために、28の計画条件に基づき研究室が196の活動に優先度をつけた。そして、研究室から9つの機能(図6-A-4)を導出し、それらで構成された施設構成案(図6-A-5.構成案①)をWSで市民と市役所に提示した。(9つの機能:コミュニティスペース/図書コーナー/バスの停留所/図書コーナー/打ち合わせや勉強ができる場所/軽い

飲食が取れる場所/授乳室・おむつ替えスペース/子供達が遊ぶ場所/発表・練習ができる場所)

【STEP4】

市役所が196の活動の優先度をつけ、新たに3つの機能(図6-A-6)を導出した。

(新たな3つの機能:地域の情報提供の場所/広場・緑地/外で遊べる場所)

【STEP3】の9つの機能と新たな3つの機能を合わせて拠点施設に整備すべき12の機能が導出された。

【STEP5】

市民がWSで196の活動の優先度をつけた。これより、12の機能のうち優先度の高い7つの機能(図6-A-8)が導出された。

(優先度の高い7つの機能:コミュニティスペース/図書コーナー/打ち合わせや勉強ができる場所/授乳室・おむつ替えスペース/子供達が遊ぶ場所/地域の情報提供の場所/外で遊べる場所)

研究室がそれらの関係性を示し、施設構成案(図6-A-9.構成案②)をWSで市民と市役所に提示した。

【STEP6】

市民がWSで12の機能の関係性について議論し、拠点施設の機能の6つの複合を導出した。

(6つの複合:バスの停留所とコミュニティスペース、地域の情報提供の場所の複合/バスの停留所とコミュニティスペース、子供達が遊ぶ場所の複合/図書コーナーとコミュニティスペース、子供達が遊ぶ場所の複合/子供達が遊ぶ場所とコミュニティスペース、軽い飲食が取れる場所の複合/軽い飲食が取れる場所とコミュニティスペース、外で遊べる場所の複合/軽い飲食が取れる場所とコミュニティスペースの複合)

また、6つの複合によってそれぞれで起こりうる効果を明らかにした(図6-A-11)。

清水沢都市拠点複合施設で達成されたこと(4つの計画方針に対して)	方針【I】に対して	情報拠点と交通結節点、行政サービスの複合 地域の情報を知る場所(10)と放課後の居場所(1)、行政のサービス(2)の複合 ↓ 効率的な情報発信サービスの提供や待ち時間の効率化を担保
	方針【II】に対して	周辺医療施設との機能連携 周辺の診療所と機能連携 ↓ 診療所を利用する高齢者が多世代が集まる場所に訪れることで、医療面における見守りを担保
	方針【III】に対して	交通結節点と教育機能の複合 バスの停留所(3)と放課後の活動する場所として発表・練習(9)、音楽活動を行う場所(12)の複合 ↓ 放課後の居場所を担保
	方針【IV】に対して	交通結節点と多世代交流の場の複合 バスの待合所(1)・停留所(3)と市民が集まる談笑スペース(1)の複合 ↓ 市民が利用するバスの拠点を担保

図7 拠点施設の市全体に対する役割

都市拠点複合施設計画のプロセス (図 4-A)

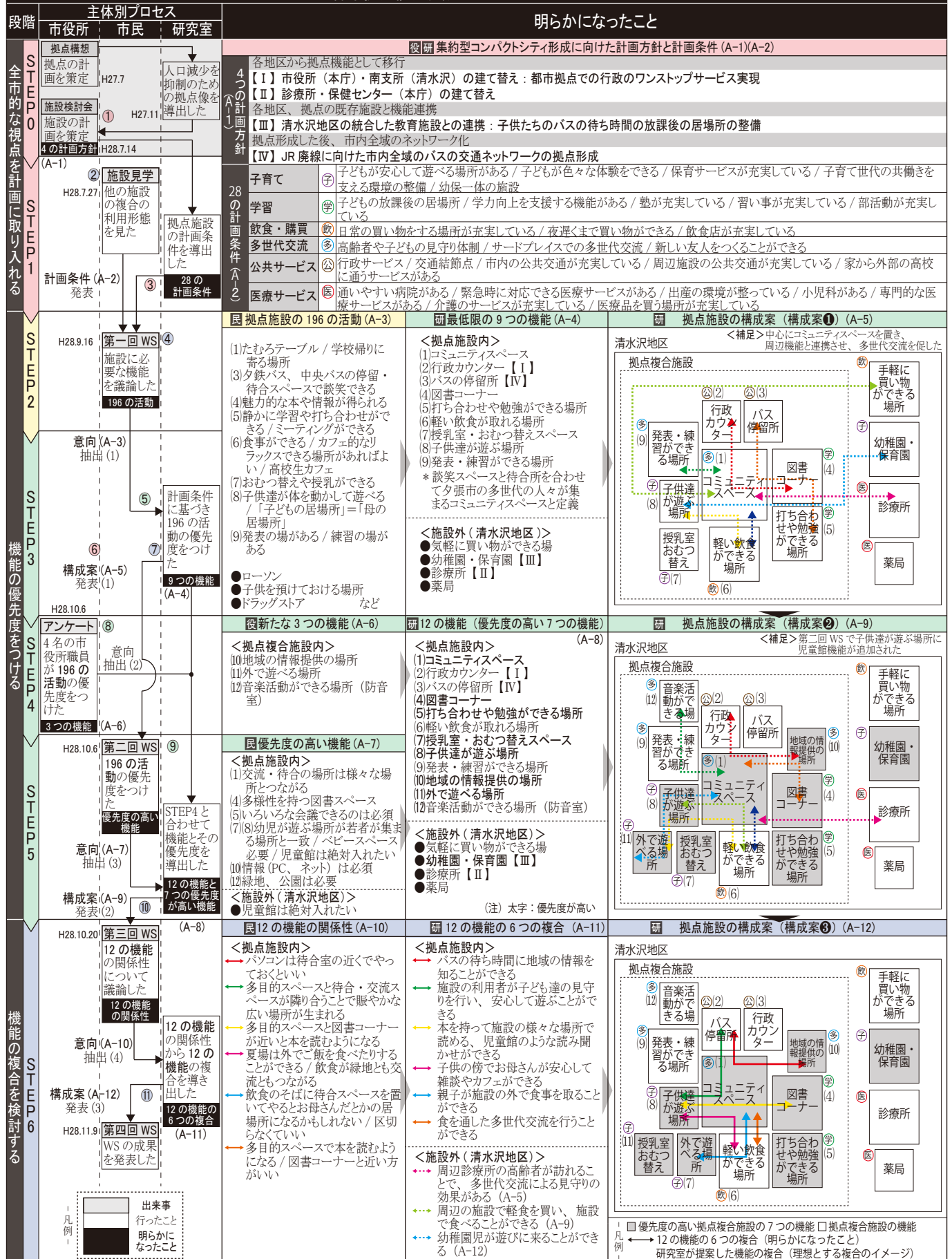


図6 都市拠点複合施設の計画プロセスと各プロセスで明らかになったこと

【STEP1】～【STEP6】より、整備すべき12の機能(優先度の高い7つの機能を含む)と、それらに係る6つの複合を明らかにし、施設構成案(図6-A-12.構成案③)をWSで市民と市役所に提示した。

この施設計画では、計画条件を定める際に市全体の計画を組み込んだ。その結果として、市全体として達成すべき計画方針に沿った拠点施設の機能構成を構想することが達成された。(図7)

4.集約型コンパクトシティ形成に向けた施設計画の方法論

施設計画のプロセスから要点を抽出し、集約型コンパクトシティ形成に向けた施設計画の方法論として以下に3点示す(図8)。

【(1)全市的な視点を持つこと】

公共施設の集約を図るために、市全体の状況を踏まえた拠点施設の機能構成を組み立てることが必要である。

<市役所>市全体を踏まえた計画方針を作成する。

<研究室>市役所の計画方針に沿った施設計画の計画条件と機能構成案を市民に示す(図6①③⑥)。

【(2)機能の優先度をつけること】

市役所、市民、研究室は以下のことを視点として持ち、施設の機能の優先度を決定する。

<市役所>市の財政的負担の低減

<市民>利用者としての必要性

<研究室>機能の効率的な構成(図6⑤⑧⑨)。

【(3)機能の複合を検討すること】

(1)(2)を踏まえ、拠点施設の複合的な機能構成と施設利用を検討する。

<市役所>拠点施設に効率的な機能構成を持たすことを視点として市民に複合利用を促す(図6②④)。

<市民>施設見学などから、施設の複合利用の仕方について学んだ後、拠点施設の複合利用を検討する(図6②④)。

<研究室>終始一貫して、複合利用を前提とした機能の複合イメージを市民に提案する(図6⑦⑩⑪)。

以上の研究の成果を元に現在、清水沢地区の都市拠点複合施設の基本構想について我が研究室が具体的な空間像の提案を行っており、都市拠点複合施設基本構想のWSの場で発表し、市民と市役所と議論を行った。今後、基本構想の提案と議論の結果を踏まえて、都市拠点複合施設の基本計画に向けて進めていくとともに清水沢地区拠点構想を進めている。

本研究は、2016年度科学研究費挑戦的萌芽「空き家を活用した市街地集約化による縮小型コンパクトシティ形成手法の構築」(代表:瀬戸口剛)の助成を受けた。

都市拠点複合施設計画の方法論

方法論 (1)		全市的な視点を持ち、計画に取り入れる	
全市的な視点を持つ	市役所	初めに、全市的な視点を持って施設計画の方針を策定する	
	研究室	計画方針に沿った、計画条件とその機能構成案を市民に示す	
方法論 (2)		機能の優先度を決定すること	
機能の優先度をつける	市役所	財政的負担の低減を視点に持ち、機能の優先度をつけて精査する	
	市民	利用者としての必要性を視点に持ち、機能の優先度をつけて精査する	
	研究室	機能の効率的な構成を視点に持ち、機能の優先度をつけて精査する	
方法論 (3)		機能の複合を検討すること	
機能の複合を検討する	市役所	効率的な機能構成を視点として複合利用を促す	
	市民	施設見学などから、拠点施設の複合利用を検討する	
	研究室	終始一貫して、複合利用を前提とした機能の複合イメージを市民に提示する	

図8 都市拠点複合施設の計画の要点と計画における各主体の役割

<参考文献> 1)H24「夕張市まちづくりマスタープラン」/夕張市 2)「人口激減都市における集約型コンパクトシティ形成に向けた拠点像」/櫻村圭亮(2015卒業論文) 3)「地方小都市における人口減少を抑制するためのまちづくり」/松田かりん(2015卒業論文) 4)「集約型コンパクトシティにおける人口減少を抑制するための都市拠点像 北海道夕張市における都市再編研究その13」/加持亮輔 5)H28「夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略」/夕張市 6)H28「夕張市公共施設管理計画」
 <註釈> 注1)WSメンバー25名(アトリウム、子育て、多目的の3チームに分かれる)WS日程(H28.9/16.10/6.10/20) 都市拠点複合施設基本構想に向けて夕張市役所の清水沢都市拠点整備部会事務局が行ったもの。第一回WS議題内容:「拠点複合施設にどうやったら人が集まるのか(STEP1)(ソフト面)集客力」第二回WS議題内容:「ソフト面を機能(ハード)と結びつ

ける(コスト面も考慮)(STEP2)」第三回WS議題内容:「コンサルに伝える、施設イメージを考えよう①」第四回WS議題内容:「各チーム報告(各チーム報告後 アンケート記入)」注2)拠点検討委員会25名(アトリウム、子育て、多目的の3チームに分かれる)上記のWSも含む。拠点検討会日程(H28.7/14.8/31)WS日程(H28.9/16.10/6.10/20) 夕張市役所の清水沢都市拠点整備部会事務局が行ったもの。計画内容として1、都市拠点複合施設計画説明2、施設見学先検討3、他の市町村の公共施設見学4、施設見学発表5、WSという流れで行った。注3)検討委員会と市役所ヒアリング日程(H28.6/22.7/14) 都市拠点複合施設計画について市役所訪問し、流れや市役所の意向を把握した。検討委員会の内容は庁内横断的検討会を2年程開き検討、平成28年7月28日「拠点施設検討チーム」結成、その日に拠点施設検討会で市民に向けて発表を行った。

* 北海道大学大学院工学院 修士課程
 ** 北海道大学大学院工学研究室 教授 博士(工学)
 *** 北海道建設部 工修
 **** 北方建築総合研究所 居住科学グループ 主査
 ***** 北海道大学大学院 博士課程

* Graduate Student, Graduate school of Eng.,Hokkaido Univ.
 ** Professor, Graduate school of Eng.,Hokkaido Univ.,Dr.Eng.
 *** Construction Department of Hokkaido Government,M.Eng
 **** Chief Coordinator, Northern Regional Building Research Institute
 ***** Doctor Course Graduate School of Eng,Hokkaido Univ.